

## 令和6年度の各部会の取組みについて

第1回 健康づくり部会		<事務局:保健医療企画課>
開催日時	令和 6 年 8 月 27 日 ( 火 ) 13 : 30 ~ 14 : 45	
出席者 (委員)	田中 英之 豊橋市医師会副会長 鈴木 研二 豊橋市歯科医師会副会長 上東 博司 豊橋市薬剤師会理事 辻村 尚子 豊橋創造大学准教授 夏目 美鈴 豊橋女性団体連絡会会員 加藤 久和 豊橋市社会福祉協議会事務局長 加藤 智久 豊橋商工会議所常務理事 熊崎 稔子 豊橋市保健所管内栄養士会会長・愛知学泉短期大学講師	
議題	1 健康とよはし推進計画(第3次)の概要 2 意見交換 健康とよはし推進計画の各項目の推進について 1) 目標達成にむけて意見交換したい項目について 2) 健康づくりを進めるための社会環境の向上に向けた取り組みについて	
内容	1 健康とよはし推進計画(第3次)の概要 ・「健康とよはし推進計画(第3次)概要版」にて説明。第3次計画は、ライフステージ毎で区切って健康づくりを考えるのではなく、胎児期から高齢期に至るまでの生涯を経時的に捉えた健康づくりの観点をもって健康づくりを推進していく。 2 意見交換 健康とよはし推進計画の各項目の推進について 1) 目標達成にむけて意見交換したい項目について ・痩身傾向児の割合、朝食欠食、中学2年生女子の総運動時間、進行した歯周炎を有する者の割合(40代)、特定保健指導の実施率 2) 健康づくりを進めるための社会環境の向上に向けた取り組みについて ・豊橋健康宣言事業所、ゲートキーパー、伴走型支援、高齢者の健康づくりや介護予防について	
委員からの意見	2 意見交換 健康とよはし推進計画の各項目の推進について 1) 目標達成にむけて意見交換したい項目について ・朝食欠食は全国的な問題。家庭の事情で貧困等による格差の問題も含まれていると思うので、格差のあるところに指導や支援が必要だと思う。 ・運動は乳幼児からの問題。スマホ所有年齢の低年齢化と睡眠時間の減少傾向も関係している。地域でスポーツに参加できる機会があると良い。全世代が取り組めるような「ゆるスポーツ」が適しているのではないかな。体を動かさないとお腹が減らないというサイクルになり、運動と食は連動している。 ・歯周病について、検診の受診率が6%程度なので、啓発に力を入れていただきたい。 ・スウェーデンやブラジルでの定期受診で虫歯と歯周病の改善例がある。歯科で専門的なクリーニングを受けることに効果があることは明らかなので、周知をお願いしたい。 2) 健康づくりを進めるための社会環境の向上に向けた取り組みについて	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの支援が一貫して実施されておりとても良い。支援に ICT 等は活用しているか。</li> <li>・高齢者の運動は具体的にどんな内容か、体操リーダーの募集はどうしているのか、応援講座で育っていくと、ほの国リーダーになるのか。</li> <li>・豊橋健康宣言事業所を増やすにあたり、商工会議所とも連携し、関心のある企業の集まりなども活用を。何かすごいことをやらないといけないと思っている事業所もあると思うので、ハードルをさげるような PR ができたらと思う。市内 14,000 以上の事業所がある。豊橋市は積極的に取り組んでいる方だと思う。</li> <li>・3世代同居で見守っていけると子育てしている保護者も安心できると思うが、核家族化も進み 1 人で悩んでいる状況があると思う。本来は、近所で見守っていけるような仕組みや、お互いに声をかけられるような環境があるといいと思う。</li> <li>・健康とよはし推進計画の中でデジタル化、ICT、DX 化とあるが、具体的な使用、計画、評価までは落とし込めていないように感じる。デジタル化の波に乗れない高齢者のフォローを行い、孤立化も防いでいただきたい。</li> <li>・ほの国体操リーダーについて、YouTube で誰でも見ることができ、全世代でできる運動ということで作成しているので活用していただきたい。</li> </ul>
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦から不安の表出がなくても、置かれている状況から予防的に支援者が関われるような体制をとり、地域の子育て支援とも連携しながら進めていく。</li> <li>・豊橋健康宣言事業所を増やすための啓発として、広報とよはしや、担当が企業訪問を行い、横のつながりから増やしていく予定。</li> <li>・今回の計画の中で ICT や DX 等は目玉の一つ。今後普及していくであろうマイナポータルの活用も見込んでおり、住民が ICT を活用して自身で健康管理していくことを目指している。</li> </ul>

令和6年度

第1回 歯科保健推進部会		＜事務局:健康増進課＞
開催日時	令和 6年 11月 28日 ( 木 ) 14 : 30 ~ 16 : 00	
出席者 (委員)	嶋崎 義浩 愛知学院大学 歯学部口腔衛生学部教授 藤城 治義 豊橋市歯科医師会副会長 河合 泰典 豊橋市医師会医師 林 彰久 豊橋市薬剤師会理事 石黒 節子 豊橋市中央地域包括支援センター看護師 岩瀬 賀恵 愛知県歯科衛生士会三河東部支部支部長	
議題	1 豊橋市歯科口腔保健推進計画(第2次)に基づく今後の歯科保健の推進について 2 2歳児歯科健康診査について 3 25歳・35歳歯周病検診について 4 豊橋市口腔保健支援センター調査・研究事業について	
内容	1 豊橋市歯科口腔保健推進計画(第2次)に基づく今後の歯科保健の推進について ・基本方針1から3の、行政の取り組みについて一表にまとめ情報共有を行った。 2 2歳児歯科健康診査について ・2歳児歯科健康診査は、幼児期のう蝕予防を目的に、平成14年度開始の事業。 受診率は平成30年度を境に年々減少傾向である。 未受診の理由等を調査分析すると共に、本事業の有効性について評価を行った。 3 25歳・35歳歯周病検診について ・今年度新規事業として開始した25歳・35歳対象の歯周病検診の現状報告を行った。受診券のない形での実施状況もあり、同世代(20歳・30歳)と比較すると受診率が著しく低い状況。 4 豊橋市口腔保健支援センター調査・研究事業について ・令和4年度開始の後期高齢者歯科健診の事業評価の一環として、歯科検診実施医療機関を対象にアンケート調査を実施予定。	
委員からの意見	・フッ素洗口事業については、学校歯科医から学校長や養護教諭に声をかけるようお願いはしている。 ・訪問歯科診療に関しては、在宅高齢者についてグループLINEを立ち上げて50人近く登録がある。依頼があった件についてはすべて対応している。 ・肺炎の重症化リスク、肺炎球菌ワクチンの接種については折に触れ啓発をしている。以前と比べると2歳児歯科健康診査の受診は少ないように感じる。 口腔機能低下症という病名がついて、しっかり保険点数がついたので、その影響もあり判定率も上がってきたかと思う。	
今後の方向性	・歯科受診の必要性やオーラルフレイル予防について継続して周知していく。 ・2歳児歯科健診のあり方については3歳児健診保護者を対象にアンケート調査を実施し今後検討予定。 ・歯科医院を継続受診中の方でも健診受診可能である事が伝わるような分かりやすい説明を心掛ける。	

令和6年度

第1回 精神保健福祉推進部会		＜事務局:健康増進課＞
開催日時	令和 6 年 9 月 書面開催	
出席者 (委員)	小久保至浩 豊橋市医師会 精神科医会長 木之下隆夫 愛知大学 名誉教授 小島 俊男 豊橋市技術科学大学健康支援センター 教授 近藤 裕之 豊橋市歯科医師会 副会長 井上 玲子 豊橋市薬剤師会 理事 佐藤 大介 可知記念病院 精神保健福祉士 井出 佑典 特定非営利活動法人いまから 理事長 河澄 裕正 豊橋市公共職業安定所 所長 山本 伸彦 豊橋警察署 生活安全課 課長 勝見 優子 愛知県精神保健福祉センター 主査	
議題	1 報告 (1)豊橋市の自殺の現状 (2)第2期豊橋市自殺対策計画※における事業の評価について (3)今後の推進について 2 議題 (1)ひきこもり実態調査について	
内容	上記について、資料の送付及び意見聴取を書面にて行った。	
委員からの意見	1 報告について ・30～50 歳代の有職男性の自殺者数が多い状況。長時間労働こそ減ったが、パワハラや人間関係のストレスが多い印象を受けている。引き続き会社、職場に対する働きかけが必要である。 ・死因順位に関して、順位の上下にそれほど重要性を感じない。上位に自殺が死因としてあるかないかではなく、各年齢層それぞれに自死者がいるというだけで検討すべき課題だと考える。 2 議題について ・ひきこもりの中には統合失調症、躁うつ病、不安障害等が隠れているケースもあると思われる。治療の効果が期待できる一群として捉えていくことが重要である。	
今後の方向性	・特に意見が多かった有職者へのメンタルヘルス対策については、引き続き企業に対してゲートキーパー研修の実施とともに、企業の管理部門へも積極的なアプローチを行い、働く方へのメンタルヘルスケアの必要性も周知していく。 ・第2期豊橋市自殺対策計画をふまえ、関係機関との連携を進め、社会全体で包括的な取り組みを推進していく。 ・ひきこもりの実態調査の結果から、今後のひきこもり支援施策の基本資料とし、効果的な支援に結びつくように努めていく。	

第2回 精神保健福祉推進部会		＜事務局:健康増進課＞
開催日時	令和 7年 2月 6日 ( 木 ) 13 : 30 ~ 15 : 00	
出席者 (委員)	小久保至浩 豊橋市医師会 精神科医会長 木之下隆夫 愛知大学 名誉教授 近藤 裕之 豊橋市歯科医師会 副会長 井上 玲子 豊橋市薬剤師会 理事 佐藤 大介 可知記念病院 精神保健福祉士 井出 佑典 特定非営利活動法人いまから 理事長 河澄 裕正 豊橋市公共職業安定所 所長 山本 伸彦 豊橋警察署 生活安全課 課長 勝見 優子 愛知県精神保健福祉センター 主査	
議題	1 ひきこもりの実態調査の結果報告 2 ひきこもり支援の現状について	
内容	1 ひきこもりの実態調査の結果報告 令和6年9月～10月に実施したひきこもり実態調査の結果を報告し、課題及び取り組むべき方向性について説明。 2 ひきこもり支援の現状について 国のひきこもり支援施策及び本市のひきこもり支援体制について説明し、各機関のひきこもり支援の取り組み、課題について共有。	
委員からの意見	1 ひきこもりの実態調査の結果報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひきこもり支援は早期に介入すべきであり、状況の変化には時間がかかる。</li> <li>・ひきこもりは個人の問題ではなく社会の在り方の問題。複合的な問題が複雑に絡み合っている。</li> <li>・相談体制の整備は必要。相談を受ける側は最後まで関わり続ける覚悟が必要。</li> </ul> 2 ひきこもり支援の現状について <ul style="list-style-type: none"> <li>・否定された経験がある人が多い。時間をかけ、話を聴き、やりたいことを確認していく。興味をもって関わり続けてくれる人がいることが大切。</li> <li>・ひきこもりの相談は時間が経過しても主訴が変わらず時間がかかるのが特徴。オンラインの居場所やLINE相談も実施し、本人と繋がれるような工夫をしている。</li> <li>・精神疾患の疑いがあれば保健所へ繋ぐなど関係機関とも連携をしている。</li> <li>・8050問題として親の支援をしているケアマネから50歳代の子どものひきこもりの相談を受けることが多い。本人が信頼できる人と巡り合えるように努めている。</li> <li>・ひきこもり期間が長期化した場合や世帯が困窮している場合、本人や家族が現状を変える意欲が無い場合は支援が難しいと感じる。</li> <li>・家族には病院に相談したり、暴力があれば警察に連絡するように伝えている。何かあった際の相談先や連絡先を知っていることで家族の安心感につながる。</li> </ul>	
今後の方向性	実態調査の結果や意見を踏まえ、今後のひきこもり支援施策の検討をしていく。	

令和6年度

第1回 母子保健推進部会		＜事務局:こども保健課＞
開催日時	令和 6年 10月 16日 ( 水 ) 15 : 00 ~ 16 : 30	
出席者 (委員)	河合新治 豊橋市医師会理事 小児科 竹内欽哉 豊橋市医師会理事 産婦人科 城所 貴 豊橋市歯科医師会 理事 加藤理恵 豊橋市薬剤師会 理事 朝河麻理 東山子どもセンター 保育士 岡本雅子 豊橋創造大学短期大学部 幼児教育・保育科教授	
議題	1 母子保健分野の現状について 2 令和5・6年度の新規および拡充事業実績について 3 豊橋市におけるプレコンセプションケアの現状と課題について	
内容	1 母子保健分野の現状について(事務局報告) ・健康とよはし推進計画の評価指標(基本方針 3-1)について ・母子保健事業の指標について 2 令和5・6年度の新規および拡充事業実績について(事務局報告) ・出産・子育て応援給付金給付事業について ・伴走型相談支援事業について ・産後ケア事業の充実 3 豊橋市におけるプレコンセプションケアの現状と課題について ・事務局から本市の取り組み及び関連事業について報告 ・各分野のプレコンセプションケアの現状について報告および課題の協議	
委員からの意見	・園ではプライベートゾーンについて伝えている。保護者理解も必要。 ・無関心層へのアプローチについて、自分自身の健康についてもどこか他人事のようなところがあるため、相手の立場に落とし込む説明が必要。 ・性の情報の入手手段がスマホに偏っており情報過多であるため、正しい情報を得て自分のものにしていくことが重要。性に関する講座は、中学でやるべきと思う。講師をする人も時間も限られてくるのでウェブや同時ライブ配信みたいなことができると良い。 ・性に関する講座は、市の関係課でうまく連携し、希望する学校だけでなく市内全校で実施できればよい。	
今後の方向性	・プレコンセプションケアは、性に関することでだけではなく若い世代から将来を見据えた健康づくりが重要。 ・幼少期から自分を大切にすることが自然に配慮されていくように環境を整える。	

第2回 母子保健推進部会

<事務局:こども保健課>

開催日時	令和6年11月6日(水) 13:30～15:00
出席者 (委員)	<p>河合新治 豊橋市医師会理事 小児科</p> <p>城所 貴 豊橋市歯科医師会 理事</p> <p>加藤理恵 豊橋市薬剤師会 理事</p> <p>戸川泰子 豊橋市民病院 小児科(新生児) 副部長</p> <p>中神達二 難病のこども支援東海ネットワーク 会長</p> <p>鈴木隆朗 豊橋あゆみ学園 園長</p> <p>井上真志 愛知県立豊橋特別支援学校 教諭</p> <p>杉浦三佳世 豊橋市医師会訪問看護ステーション 所長</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和5年度事業報告について</li> <li>2 令和6年度事業について</li> <li>3 小児慢性特定疾病児童等の就園・就学について</li> </ol>
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和5年度事業報告について <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、小児慢性特定疾病の状況、および医療的ケアの必要な児の内訳やサービス利用している者等の報告。</li> </ul> </li> <li>2 令和6年度事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、小児慢性特定疾病児童等交流会実施報告、小児慢性特定疾病の改正点について報告。</li> </ul> </li> <li>3 小児慢性特定疾病児童等の就園・就学について <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、小児慢性特定疾病新規・更新申請時の就園・就学に関する相談内容と関係機関への調査について報告。</li> <li>・小児慢性特定疾病児童等の就園・就学見通しガイド作成について協議。</li> </ul> </li> </ol>
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児慢性特定疾病児童やその保護者は、それぞれに悩みを抱えている方が多い。交流会があるのはとても重要と感じる。</li> <li>・小児慢性特定疾病児童において、就園・就学についての不安は大きい。見通しガイドにより保護者が就園・就学まで見通しが持てるのは良いこと。同時に、必ずどの施設でもすべての児が受け入れられる現状ではないことから、保護者や関係機関が連携を取り、個別性に合わせた案内をすることも必要。</li> <li>・見通しガイドだけでは理解が難しい場合がある。保護者や本人が何に困っているかを聞いて、具体的に説明できると良い。</li> </ul>
今後の方向性	<p>小児慢性特定疾病新規・更新申請時の配布に向け、就園・就学に関する見通しガイドを作成。</p>

令和6年度

第1回 生活衛生部会		＜事務局:生活衛生課＞
開催日時	令和 6年 10月 7日（木） 13：15～14：45	
出席者 (委員)	河合 正治 豊橋市獣医師会会長 小林 一男 豊橋市自治連合会副会長 古橋 幸子 市民団体 命にやさしいまちづくりハーツ代表 大河 さやか 一般社団法人 あにまるあいず代表理事	
議題	1 豊橋市動物愛護管理推進計画の総括(案)について 2 豊橋市動物愛護センター(仮称)での取組み(案)について 3 動物愛護センター工事の進捗について(報告)	
内容	1 豊橋市動物愛護管理推進計画の総括(案)について 推進計画の令和 6 年度末の期間満了に伴い、推進計画の基本方針に基づき実施した取組みと成果などを整理し、総括を行った。  2 豊橋市動物愛護センター(仮称)での取組み(案)について 「動物の愛護及び管理の啓発、犬や猫の譲渡推進、災害時等における危機管理、多様な主体との連携・協働」の機能を果たすため、基本計画、整備基本計画で整理した動物愛護センターで実施する取組みの内容について、意見を諮った。  3 動物愛護センター工事の進捗について(報告) 工事の概要と今後のスケジュールについて、説明を行った。	
委員からの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターでの地域猫不妊去勢手術の取組みを含めた、猫の問題を解決するための対策を考えてほしい。</li> <li>・市民ボランティアと連携した取組みに期待したい。</li> <li>・市民の動物愛護への理解を深める取組みに期待したい。</li> <li>・現場の人の意見を取り入れてほしい。</li> <li>・市民に貢献し、住みよいまちづくりにつなげられる取組みに期待したい。</li> </ul>	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物愛護センターにおける取組について、関係団体の意見を参考に、引き続き検討を継続する。</li> </ul>	